

2) 「A Survey of the Bandit Problems」 浜田年男
(姫路短期大学)

● 第7回

日時：2月6日(土) 14:00~17:00

場所：大阪大学工業会館 出席者：20名

テーマと講師：「Impulsive Control をめぐって」吉田稔
(大阪大学基礎工学部)

2) 「An Entropy Model for Brand Selection」坂口 実
(大阪大学基礎工学部)

●社会経済分析●

● 第18回

日時：1月30日(土) 14:00~17:00

場所：東京都勤労福祉会館 出席者：15名

テーマと講師：「コンピュータテクノロジーの発達と社会システムへのインパクト」 兩宮幸雄(東京計算サービス)

コンピュータテクノロジーの発達は好むと好まざるとにかかわらず進行するが、終局の課題としてこれがわれわれに幸福をもたらしてくれるものかどうかということである。今回は緻密な分析の上にあるべき方向が浮きぼりにされ、示唆に富む成果が得られた。

● 第19回

日時：2月27日(土) 14:00~17:00

場所：東京都勤労福祉会館 出席者：12名

テーマと講師：「世界の中の極東」井上喜代重(アジア精神文化の会)

極東各地の事情を知るには、その地域の民族性と社会体制の客観的な分析が大切であるが、今回の分析は、今

● ミニミニ ●

● OR ●

実用折り紙(1)

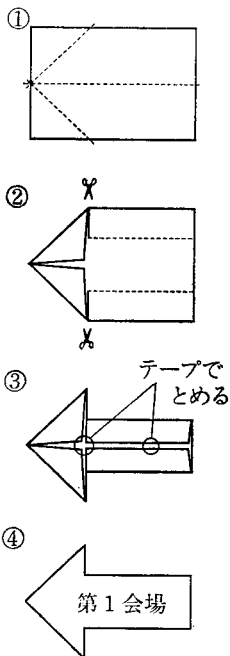
折り紙が、我が国の世界に誇る伝統手芸であることは言をまたない。正方形の紙1枚から作られる様々な造形の妙には誠に目を見はらせるものがある。折り紙によって遊びと夢と美しさを追い求めるのは、もちろん、素晴らしいことではあるが、一方でもう少し実用的な一面があっても良いように思う。

①実際にも使えるものを作ること。②必ずしも正方形の紙からでなくても、たとえば、われわれの身近にある $1:\sqrt{2}$ の長方形の紙からでも作れることが望ましい。そのかわり、③ノリやハサミ等の使用も、もう少し積極的に認めること。……こんな条件のもとでの、折り紙、というよりは紙細工がもう少し工夫されても良いように思うのだが……。

とりあえず、筆者の知っているものをいくつか紹介しておくことにしよう。

(からくり堂主人)

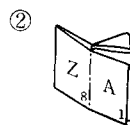
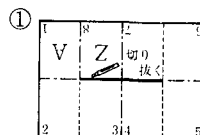
(1) 矢印 学会の会場など、道順を示す



うらがえてして出来上り

(1)

矢印はこうして作れば、バランスのとれた同じ形と大きさのものができる。JISA-B4の、できればカラーペーパーで作るとよい。



A3版の紙から作ればはがき大の手折り本になる。

(2) 手折り本 大型の紙1枚に印刷し、これに切り込みを入れて折りたたむだけで表紙もいれて8ページの手折り本ができる。今日では、簡易印刷機が発達したので、あまり用いられない方法だが、謄写版の時代には時折用いられたものである。